

故郷を愛し教育に尽くす使者

—日本で活躍する胡金定先生

胡金定氏は華僑社会で尊敬されている人物である。

胡金定氏は外国で学問の分野で目覚ましい業績を上げ、同時に教育と文化交流に尽力している。氏は海外の学術分野で目覚ましい業績を上げると同時に、祖国や故郷、教育や文化交流などの公共の福祉に尽力している。

学びの足跡: 勤勉、向学のため村を離れる

1956 年、胡金定氏は中国福建省漳州市芳陽郷克山村竹田自然村に生まれた。

氏は毎日歩かなければならない子供だった。子供の頃、晴れた日は埃っぽく、雨の日はぬかるんだ山道を毎日 10 マイル以上歩いて学校に通わなければならなかったが、氏の知識欲を止めることはなかった。

文化大革命 “の混乱期における中等学校は、教育秩序に影響された。しかし胡金定氏は確固たる信念を持ち、学習に夢中になり、特に外国語について放課後は教材を探し回り、使い古された外国語の辞書を宝物と見なした。氏はこう振り返る。「当時状況は厳しく、良い教材はなかった。しかし、私は自分の運命を変えたいと思い、どんな学習の機会も手放さなかった。」

1973 年に高校を卒業した後、胡金定氏は故郷に戻り、農民として働いた。

氏は旅団科学技術ステーションで働き、年老いた農民に農業技術についてアドバイスを求めた。農業実験も行い、それが町の人々に認められた。町の人々の推薦で、1975 年アモイ大学外国語文学科に入学し、日本語を専攻した。

大学時代、氏は時間を大切に、懸命に働いた。努力しトップクラスの成績を収めた。卒業後、胡金定氏は厦門大学に残り、教鞭を執った。1982 年、「全国日本語教師養成講座」に入学し、世界各国の優秀な教師たちと意見交換をしながら学び、日本語能力を向上させた。

1985 年、世界銀行奨学金を得て、大阪の国立外国語大学に留学。その後、同大学の修士課程に入学し、国立神戸大学の博士課程にも入学し、中日比較文学を専攻した。図書館と研究室を往復し、修士論文と博士論文は指導教官から高く評価された。

学問の業績:卓越した模範

1994 年、胡金定氏は神戸大学で博士号を取得し、日本の甲南大学の教員公募に応募した。当時、競争は熾烈で、68 人の学歴エリートが参加した。氏はその優れた科学研究成果と豊富な教育経験で頭角を現し、甲南大学の准教授となり、国際学界で中国人学者の栄誉を勝ち取った。その 3 年後、卓越した研究業績により、胡氏は日本の大学の常識を覆し、異例の終身教授に選出された。中日言語学、比較文学、比較文化などの分野をカバーし、中日文化・言語の相違と関連について深く分析・研究し、中日文化交流と相互理解に理論的な裏付けを提供している。氏はまた、「学術研究は文化交流と理解を促進することであり、中日両国民が互いをよりよく知ることができるようにすることである」と語っている。さらに、胡金定氏は 10 冊以上の著書と翻訳書を出版し、『日本と中国の絆』など、独自の視点と深い意味合いを持つ中日文化の魅力と相互影響を示し、学術交流の架け橋となっている。

教育への貢献:学校への寄付、故郷への愛

胡金定氏は、日本でも優秀だが、故郷の教育に心を寄せ、1997 年、10 万元を寄付して「方陽鎮胡金定教育基金会」を設立し、人柄がよく、教育も優れている故郷の貧しい学生たちを支援した。

当初、同財団は方陽鎮、可山村の学生に資金を提供し、胡金定氏は自ら資金提供先を審査した。2007 年、同財団の登録資本金は 200 万元に増加し、「福建省胡金定教育基金会」と改名し、資金提供の範囲は福建省全体に拡大した。

設立以来、同財団は累計 210 人の学生に資金を提供し、受給者の多くは優秀な成績を収め、中には進学して卒業証書を取得した者もいる。学校を卒業し、博士号や修士号を取得した者もいる。博士号取得者の一人は「胡先生の援助がなければ、私は学校を中退していたかもしれません。彼は私の人生の進路を変えてくれました」と感謝の言葉を述べた。

胡金定氏はまた、日本の友人たちにも財団への支援を呼びかけ、中国の貧しい学生たちの苦境や教育の重要性を伝えると、彼らの多くが心を動かされ、寄付をするようになった。

氏は言った。「私は小さくて貧しい村の出身で、子供たちにとって教育が重要であることを知っています。」「より多くの子供たちに運命を変える機会を与えたいのです。」

文化の交流:文化を広め、理解を促進

在日華僑の指導者として、胡金定氏は中日両国の文化交流を積極的に推進している。

日本の甲南大学の教授として在職中、彼は日本の学生に生き生きとした授業を通して中国の歴史、文化、社会的地位を理解してもらうために、コースを入念に設計し、また学生に

中国文化の魅力を体験してもらうために、文化活動を企画した。ある日本の学生はこう言った。「胡先生の講座や活動を通して、中国文化についてより深く知ることができ、とても気に入ったので、将来は中国に行きたいと思っています」。

胡氏は中国の歴史と文化を広めることに熱心だけでなく、日本で道教を広めることにも尽力している。氏は道教が中国の伝統文化の重要な一部であり、哲学的思考と人文精神が豊富に含まれていることを深く認識している。そのため、日本での学術的地位と影響力を生かし、道教思想に関する講演会やセミナーを何度か開催した。

講演では、老子の『道法自然(道は自然に法る)』から荘子の『逍遙遊』に至るまで、道教の起源と発展、その核心となる教えを詳しく紹介し、分かりやすい言葉と生き生きとした事例を用いて、日本人に道教への理解を深めていった。

また、道教の専門家や学者を日本に招き、日本の学生のために中国の道教の聖地への見学旅行を企画した。

胡金定氏の道教思想普及の努力は非常に好評で、多くの日本人が道教に興味を持ち、中には道教文化の研究を始めた人もいた。彼の取り組みは、日本人の中国伝統文化に対する理解を深めただけでなく、中日文化交流に新たな活力を注入した。

胡金定氏はアモイ国家会計学院の大学院生を対象に、中国の学生に日本を理解してもらうため、日本文化や中国の発展に関する日本の見方を示す。また、記事を執筆したり、会議に出席したりして、中日両国の文化の架け橋となっている。彼の記事はしばしば両国のメディアに掲載され、友好的なメッセージを伝え、両国民の友好を深めている。

胡金定氏の博識と多才は社会から高く評価されている。

中国伝統文化の普及における彼の豊富な教育実績を鑑み、今年3月21日、中央戯劇学院は特別に氏を学院の客員教授として採用した。彼の学生たちが伝統文化の学習を向上させることができると期待されている。

社会への貢献:道徳的誠実さと才能が高く評価される

胡金定氏は、日本の教育界や華僑社会で高い評判と影響力を持っている。氏は日本の大学で中心者として民主的に選出された最初の中国人学者である。甲南大学国際言語文化センターのセンター長として、その卓越したリーダーシップとプロフェッショナリズムで同僚や学生の尊敬を集め、研究所の発展を推進した。

華僑社会では、華僑の生活を気遣い、彼らの権益のために闘い、春節祝賀会などの文化活動を催して故郷の暖かさを実感させ、法律相談や援助を行って華僑の結束力と求心力を強めている。ある華僑は、「胡金定さんは、偉大な指導者のようだ。胡金定さんがいると、日本での生活がより安心できる。」と語った。

胡金定氏の愛国心、郷土愛、献身は、郷土の人々や中国の各界の人々から称賛されている。彼は何度も故郷に戻り、後援学生や町民を訪問し、故郷の発展のために助言を与え、

より多くの人々に公共の福祉事業や文化交流に専念するよう激励している。

胡金定氏は傑出した学者であり、公明正大な人物であり、日本で尊敬される華僑の指導者である。胡金定氏の物語は、夢を追い求める道を勇敢に歩む無数の人々に勇気を与え、中日友好協力と中国伝統文化の普及に尽力した結果、中日両国の人々に深く愛されている。

写真: 胡金定名誉教授 近影

写真: 2025 総領事春節レセプション in 大阪

写真: 2025 世界中国語暗唱大会

写真: 2025 北京 SKP RENDEZ-VOUS にて

写真: 2025 中央戯劇学院宋院長からの客員教授証書

写真: 2005 兵庫県西脇市における日中友好交流

写真: 2025 春節祝賀会

写真: 2025 四川省光原市指導者の来日を歓迎する

DeepL.com(無料版)で翻訳しました。 ※一部加筆修正